令和４年度補正（ＷＨＯ案件）にかかる医療機材　引渡し式

９月１２日、令和４年度補正（ＷＨＯ案件）「ジンバブエにおける安全、適時かつ安価な外科、産科、麻酔科医療へのアクセス強化」で調達した医療機材の引渡し式が、国立医薬品倉庫において開催され、山中大使が出席しました。

引渡し式では、２３万７千米ドル相当のＬＥＤ手術室照明、バイタルサイン・モニター、麻酔器、電気メスユニット、除細動器、手術台等が日本からジンバブエに引き渡されました。これら機材は、今後ジンバブエ国内の４病院の手術室に設置される予定です。

我が国は、２０２３年１月から、世界保健機関（ＷＨＯ）と保健・育児省の連携の下、増加する外科・産科手術待機患者を減少させるために必要な手術の実施や関係医療従事者の研修、手術機材の整備等を総額６３万４千米ドルで支援しており、本医療機材の引渡しはこの支援の一環となるものです。

引渡し式には、保健・育児省からモンベショーラ大臣、クウィンディニ副大臣、マウンガニゼ次官、ＷＨＯジンバブエからティルネ代表等はじめ保健医療行政関係者約８０人が出席しました。

（式典の様子）

本使からモンベショーラ保健大臣に医療機材を引渡し

引渡式に臨む本使(右)、WHO 代表(中央より右)、保健大臣(中央)、保健副大臣(中央より左)、保健次官(中央より左)

保健医療行政関係者に向けてスピーチを行う本使